

7月31日(水) “しが学校支援メニューフェア”

を視察訪問しました!

○訪問テーマ 学校と企業・団体・NPO等との連携について
～しが学校支援メニューフェアより～

○訪問した委員 藤田 義嗣 委員 岡崎 正彦 委員 野村 早苗 委員

“しが学校支援メニューフェア”とは

県教育委員会では、専門的な知識や技能を持つ地域の人々や企業・団体・NPO等が学校を支援する仕組みづくりを推進しています。“しが学校支援メニューフェア”は、そうした支援者による出前授業、見学、校外学習の受入れ等のメニュー（学校支援メニュー）を紹介するブースを会場に設け、それを県内各学校の地域連携担当者等が自由に見学して、支援者と直接意見交換をします。

現在、学校支援メニューに187の団体が登録し、281のメニューがあります。今年度のメニューフェアでは、コラボしが21（大津市）を会場として、48のブース展示がありました。

※学校支援メニューの詳細については [におねっと](#) [検索](#)

○訪問の様子

「しが学校支援メニューフェア」を視察し、各支援者による学校支援メニューについて説明を受けました。その後、永年にわたり学校支援メニューに登録された功績により、県教育長から感謝状を贈呈された実績のある支援者*から、それぞれが提供している学校支援メニューや、これからの学校と企業との連携について意見交換を行いました。

※令和元年7月31日時点 69者（企業・団体・NPO等）



○学校と企業の連携授業

◇株式会社コクヨ工業滋賀

環境をテーマに、小学生から大人までを対象とした出前授業を行います。琵琶湖のヨシを守り・育て・活用する大切さについて学習します。また、地域の皆さんや多くの企業・団体さまと共に、ヨシ刈りなどの活動も行っています。

◇フジノ食品株式会社

食育をテーマに、小学校5、6年生を対象とした出前授業を行います。「食の匠の出張講座」と題して、現役のシェフや料理長、パティシエが学校に出向き、“作ること・食べることの楽しさ”を子どもたちが学びます。

◇ヤマト運輸株式会社

交通安全をテーマに、園児から小学生を対象とした出前授業を行います。「トラックの運転席から見る死角」や「横断歩道の渡り方」、「自転車の乗り方」など、各地域で配達しているドライバーが直接指導します。

○意見交換から

委員：フジノ食品のプロと子どもたちをつなげるという発想は素晴らしい。このような活動が現場に広がると、夢を持つ子どもたちが増えると思う。

フジノ：スポーツのオリンピックのように、モノづくりのオリンピックにも、もっと光が当たるように食品 していききたい。

委員：コクヨ工業滋賀のされている職場体験やインターンシップは、そこから就職につながってくるものなのか。

コクヨ：工業高校の生徒をインターンシップに受け入れている。高校生になると意識も高く、企業側と工業滋賀 しては将来就職してほしいという思いを持って受け入れている。

委員：ヤマト運輸の安全教室は、地域のドライバーと顔見知りになり、子どもたちが身近に感じることができるといえる。さらに、子どもたちや高齢者の見守り支援もありがたい取組である。

ヤマト：見守り支援については、滋賀県だけでなく、各自治体で提携して取り組んでいる。

委員：こうした取組は、滋賀の子どもたちに郷土愛が生まれたり、モノづくりに関心を持ったり、地域でのマナーが身に付くなどし、そうして成長した子どもたちが将来地元の企業に帰ってくるようなサイクルができると良いと思う。



◇教育委員から

<藤田委員>

「しが学校支援メニューフェア」では、学校教育カリキュラムや学内での学習の限界を超えて、実社会に生きる働き方から学ぶ様々な学校支援メニューがあり大変参考となりました。また、これらの学校支援メニューを有効的に生かすことにより、仕事に対する創造性を生み出す機会となっていることが有意義であると思いました。今後も、学校現場のニーズと企業等における学校支援メニューとのマッチングや、素晴らしい学校支援メニューの取組の発信を、さらに県として進めていければと思いました。

<岡崎委員>

企業と学校をつなげるメニューフェアは、学校現場の先生方の一助になっていることが拝見できました。また、長年にわたり学校支援を継続していただいている3社との対談では、活動を始められた企業の思いが長年続く活動につながることを理解できました。しかし、学校支援活動の継続は各企業で課題に違いがあり、企業内での後継者育成問題や企業風土として定着しているか否かが、重要なポイントになっているとも感じました。現状の活動の継続が、企業が学校教育に携わり将来の企業人育成につながると、考えて取り組んでいただけるようなビジョンを示すことを県として取り組まないといけないと思いました。

<野村委員>

県内にこれだけたくさんの企業や団体が、学校教育に対して支援されていることに驚きました。各ブースの説明では、「子どもたちが興味を持ち、夢をもてる、そんな授業にしていきたい」といった思いで工夫した取組をされており、学校現場だけでなく学校を取り巻く環境が滋賀の教育の礎になっていることに感銘しました。中でも、拝見させていただいた写真には、子どもたちが目を輝かせながら授業を受けている様子が伺え、事業が充実していることを実感しました。これからの滋賀を担っていく子どもたちが、こうした連携授業を体験することにより、広い視野を持つことができ、将来への希望を導かせるよう今後も取り組んでいってほしいと願っています。